

進学塾アベックス

アベックス便り1月号

令和5年1月 元日

おしらせと今月の行事予定



新年明けましておめでとうございます。昨年ロシアのウクライナ侵攻に始まり、習近平の異例の3期目政権や、台湾有事が危惧される中での極東の不安や、世界的インフレから円安不景気と、目まぐるしく地球規模での大転換を示唆する年でした。今年更なる変化に対応出来るよう、柔軟な発想としなやかな行動が求められるかも知れません。激動はまたチャンスなり!!

今月の予定

- 4日…新年開講日
- 12/23～1/9迄冬期講習期間
- 10日…中3最終全国テスト
- 14日…大学共通テスト
中学入試解禁日
- 14日…非受験生全国テスト
- ★新年度紹介キャンペーン
1月～5月まで特典一杯のお友達紹介キャンペーン開始



前回の続き～少年期の出逢い～Part④ 塾長の呟きブログ

二番手の高校だったせいか、学級の仲間は不揃いながらも尖った優秀生が点在していた。数学は抜群だけど、英語がからつき駄目。主要科目は平均レベルだが、音楽、体育、美術はプロ並み。どう見てもペンなど持ったことも無かったらうと見える不良スタイルで、喧嘩好きなヤンチャも点在していて、各クラスで覇権争いの下準備に勤しみながら、派閥構成を目論んでいる連中の中にもテスト結果に意外な結果を出す強者とか、とにかく個性豊かな集合体だった。一番に成れない二番手ばかりの連中の可能性は、寧ろ伸びしろを感じさせる余裕にも映って見えた。当の私はクラブ在籍もせず、案外真面目を装いながらも目立っていたので、派閥争いには一定の距離を置きながら一匹狼に徹していた。だが空手の実績などの噂が広まっていたのか、どの派閥にも歓迎されていて、それなりに楽しんでた。中学時代と打って変わって、滑り出しから心を全開放し、誰隔たり無く友人付き合いの交流を深めていた。ただ気になっていたのが、この高校で自分のような高い目標なり将来への布石の展望を掲げる仲間が居るのかな、と同志を探していたところでもあった。

そんな頃、クラスに一人特に仲が良くなって、よく同じ時間を過ごすようになったN君とは、その後卒業してからも長く付き合い、彼の結婚式の司会まで仰せ付かった親友だ。恰好はチビの割に、不良学ランで登校してイザというときは私を隠れ蓑にする要領の良い奴で、好対照な私との絶妙なアンバランスのやり取りが周囲に受けていたようだ。学年末テストで、クラスで唯一負けた数学は誰だろうと思っていたら、数学の満点はそのN君だった。彼と急接近したのは、テスト終えた休み期間に、大手書店でバツリ出くわしたことがきっかけだ。私が、大学受験の資料を探していたら、なんとN君が、同様に情報本を探していたのだ。『あれっ、何してんの?こんなところで?』と聞きながら、彼の手元に目を投げると『医学部攻略ガイド』が有るではないか…。驚いて、『お前、まさかの医学部志願?』と聞くと『いやねん、お前は?』と照れながらバツが悪そうに言い返したので、『俺もじゃ!医者になるねん!』とぶちまけたのが、彼との深い付き合いになる契機になった。同じ攻略本を買って、書店を出た後に数時間も喫茶店で夢を語り合っ、お互いの合格を『涙の誓い』と称して、密かに学業に励み、エネルギーへと切磋琢磨できた親友だ。家庭環境も似ていたところがあり、家業の鉄鋼関係での厳しい父親や優しい母親とも、家族のように行き来した仲だった。N君との交流はまた後述していこうが、多感な青春時代に引き寄せる出逢いは、引力の法則ならぬ類は友を呼ぶ如く、プラス波動を全開に夢を声高に妄想するぐらいが丁度よい。まさにクラーク博士の『少年よ、大志を抱け!』の意味通り夢は自分を喚起させるエネルギーに成り得るのだ。

●突然の別れと自失…そして受験

大志を語れる親友も得ながら、高校一年があつという間に過ぎ去った。あまりに楽しく高校生活を満喫していたので、青春ドラマのような毎日だった。今でもクラス会などの案内は、一年生のクラスが基軸になっているぐらい皆、仲が良い旧友達だ。しかし、二年生に上がって、俗にいう(中弛み)のマンネリに早々に陥ってしまった。学業は一年時はそれなりに維持しながら、モチベーションも同志の親友と切磋琢磨しながら保持していたのだが、二年時になぜか同じ旧クラスメンバーから私一人が外され、全員が新しい級友で構成されたクラスに配属されていた。ある意味、新鮮で良かったのだが、内心では『少し面倒くさいな…』と思っていた。目立っていた私の存在は、外から持たれるイメージギャップを埋める為の私なりの努力を再度強いられたからだ。私の中学デビューの苦いトラウマの解消の為には、過剰な自意識を善方向へ転換させる為の自助努力は不可欠であった。八方美人に振る舞う必要は無かったまでも、本名で通う在日の存在は、否応なしに私の中に無意識の緊張が常在していたからである。個性の前に『韓国人』フィルターが良くも悪くも付いて回る宿命だから、出来ればこのフィルターはプラスに転換させたい一心であったと思う。そんな自分の背負いこむ思いと裏腹に、新しいクラスでも直ぐに打ち解ける仲間が増えて、結局は、杞憂に過ぎなかったのだが…。[裏に続く]